

平成27年度「学校評価」結果（概況報告）

盛岡第二高等学校

【調査結果】

昨年度との比較

「肯定的な評価」（注1）の比率の過年度比較

質問項目	27年度 (H27.12.7～14調査)			26年度 (H26.12.12～15調査)		
	生徒 %	保護者 %	教員 %	生徒 %	保護者 %	教員 %
	斜体・ゴシック体=65%未満 下線部=90%以上			斜体=75%未満		
1 教育目標の周知	84	88	100	80	86	97
2 わかりやすい授業の実施	78	74	95	76	73	97
3 学習指導の徹底	73	61	86	67	62	82
4 家庭学習・課題の点検	81	67	70	73	65	73
5 応用力のつく授業の実践	65	59	76	58	60	63
6 生活のきまりやマナーの遵守	81	90	84	81	87	82
7 生徒会活動や部活動の活発さ	96	94	97	93	93	92
8 勉強と部活動の両立	76	72	81	75	73	85
9 生徒への安心安全の支援	83	81	100	76	79	92
10 登下校時等の安全指導	80	79	94	80	78	95
11 希望進路の実現	84	76	95	83	78	82
12 適性を考慮した進路指導	83	72	97	78	74	87
13 保護者と連携した進路指導	73	66	95	69	70	79
14 二高に入学「よかった」	86	91 (注2)	100	85	92 (注2)	97
15 安全・清潔な学習環境の保持	88	95	97	87	95	97
16 生徒の相談への丁寧な対応	81	77	100	76	80	95
17 生徒の居場所づくり	82	86	97	79	86	97
18 保護者と連携したPTA活動	72	69	95	70	65	79
19 地域への貢献	85	85	89	83	79	74
20 学校徴収金の額	(注3) 84	94	97	(注3) 82	93	97

三者の比較

H27 生徒・保護者・教員間の比較

生徒 一保護者	生徒 一教員	保護者 一教員
斜体・ゴシック体=±20以上の差 斜体=±15以上の差		
-4	-16	-12
4	-17	-21
12	-13	-25
14	11	-3
6	-11	-17
-9	-3	6
2	-1	-3
4	-5	-9
2	-17	-19
1	-14	-15
8	-11	-19
11	-14	-25
7	-22	-29
-5		
-7	-9	-2
4	-19	-23
-4	-15	-11
3	-23	-26
0	-4	-4
		-3

(注1)選択肢「a大いにそう思う」「bそう思う」を合わせて「肯定的な評価」、「cあまり思わない」「d全く思わない」を合わせて「否定的な評価」とした。(注2)項目14の「職員」は「法令・規範の遵守」(注3)項目20の「生徒」は「適性や興味関心に応じたコース選択」

【分析1】 全体的な傾向について

- ・昨年度と比較して、全体的に肯定的評価が増加し、65%未満の評価が減少している。生徒の肯定的評価は全般に向上し、65%未満は無くなっている。保護者の90%以上の肯定的評価も2項目増えた。
- ・全項目の平均では、生徒と教員の「肯定的な評価」の割合がともに3%上昇したが、保護者は昨年と同数であった。

【分析2】 評価が高かった項目、評価が改善した項目について

- 「7 生徒会活動や部活動の活発さ」 生徒・保護者ともに高い評価。運動部・文化部の活躍については報道されているとおり。他校にはない独自の生徒会行事や部活動があり、生徒の自主性を活かした活動が展開されている。
- 「14 二高に入学良かった」 生徒の評価は昨年以上の結果であった。「1 教育目標の周知」とともに生徒が伝統校に学ぶ誇りを感じつつ、伸び伸びと学校生活を送っていることが高い評価につながっているのではないかと。
- 「9 本校は、生徒個々に応じた安心安全に対する支援を行っていると思いますか」と「15 学校は学習環境の整備に努め、安全で清潔な環境の保持に努めていると思いますか」はともに今年度も高い評価を得た。
- 「6 生活のきまりやマナーの遵守」と「17 生徒の居場所づくり」はともに高評価であり、落ち着いた居心地の良い学校が実現できている。

【分析3】 評価が低かった項目、評価が分かれた項目について

【改善策】

- 「5 応用力が身につく授業の実践」は最も評価が低かった。ただ、学年別に生徒の評価を検討すると、1年生64%・2年生62%・3年生70%と3年生で大きく向上している。1・2年生での基礎固め、3年生での応用力涵養という違いも影響しているのではないかと。「2 わかりやすい授業の実施」は生徒と保護者で上昇している。「4 家庭学習・課題の点検」では保護者・教員は不十分と考えており、家庭学習の習慣化が必要である。
- 「3 学習指導の徹底」 教員と生徒・保護者の評価が分かれた。教員が感じている以上に生徒の「もっとわかるようになりたい」という思いが強いと思われる。「16 生徒の相談への丁寧な対応」は実現できているので、授業以外の場を活かすことが重要である。
- 「13 保護者と連携を取りながら、進路指導を行っていると思うか」 不十分ながら昨年より改善。面談をきめ細かく実施したほか、『進路の手引き』の全面改訂、進路学習会の早期開催等、進路指導体制を見直した(項目11、12と関連)。情報提供については改善の余地あり。
- 「18 PTA活動において、保護者との交流・対話が十分かつ活発に行われていると思うか」 教員と保護者の評価が分かれた。PTA総会やPTA研修旅行などの行事について、参加への呼びかけを行っているものの参加者数が低迷していることが一つの原因と思われる。
- 「教えて考えさせる55分授業」の充実に向けて授業公開や観点別評価を推進するとともに、生徒に「本物の勉強」の習慣化を促す。
- 授業だけでは十分理解できない生徒に対して、学習相談や個別指導をさらにきめ細かく実施していく。
- 進路学習会への保護者の参加率向上、進路希望に応じた情報提供などについて、さらに工夫に努める。
- PTA行事の内容、開催時期、連絡方法等について、抜本的な見直しを検討する。